

## ■ 第5回常陸多賀駅周辺地区整備計画策定委員会 議事要旨

---

- 1 日 時 令和2年3月27日（金） 午後1時30分から午後3時00分まで
- 2 場 所 多賀市民会館 1階小ホール
- 3 出席委員 21名（31名中）
- 4 会 議
  - (1) 開会（午後1時30分）

- (2) 委員長あいさつ

お集まりいただきお礼申し上げます。

本日は第5回の委員会ということで最終回である。前回の委員会でも様々なご意見をいただいたので、その対応内容を確認していただく。その後、整備計画の素案がまとまってきたので、それに対してご議論をお願いしたい。

- (3) 議事

議題1：第4回委員会のまとめについて

事務局から資料1に基づき、第4回委員会の概要や主な意見等について説明する。

（質疑無し）

議題2：常陸多賀駅周辺地区整備計画（案）について

事務局から資料1及び資料2に基づき、整備計画(案)について説明する。

〈質疑応答〉

副 委 員 長        これまで、駅西口付近で車両が混雑しているという話があったと思う。これに対して駅利用者の約3割が東口方面に向かってくるということも資料に記載しており、東西自由通路と東口広場を整備した場合、これまで以上に東口の利用者が増えることが予想される。

そのため、東口利用者が円滑に利用できるよう、自由通路等整備にあたっては、東口側にも改札を設ける（改札を2箇所にする）ことを、鉄道事業者に要請してほしい。また、その際は、西口に利用者が集中しているので、西口周辺での車両混雑が生じているという現状もJRに伝えてはどうか。

事 務 局            委員会の意見として、今後鉄道事業者に伝えていきたい。

副 委 員 長 東口に改札が無いから、西口に駅利用者が集中し、混雑の一因になっているということをごきちんと伝えていただきたい。

また、ひたちBRTの北進に関連して、南北の移動軸を強化するということは重要と考えるので、是非推進してほしい。その際は、BRTの速達性（専用道路）をどのように確保するのが課題と考えるが、個人的な意見として、他都市のLRTがJR線路に乗り入れていることを考慮すれば、暴論かもしれないが、鉄道敷を借用するなどの可能性もゼロではないので、柔軟に検討して行ってほしい。

委 員 長 東口の整備や交通計画にあたっては、高低差の処理が大きなポイントであるので、造成計画を入念に検討し、適切で、円滑な動線が確保できるよう検討を進めてほしい。

委 員 東口広場を整備する場合は、企業用地の取得が前提になるが、企業の意向はどうか。

事 務 局 下協議の段階ではあるが、現時点では前向きな回答をいただいている。

委 員 スケジュールに記載のあるまちづくり協議会は法定協議会となるのか。また、どのようなことをやるのか。

事 務 局 現段階では、中活法や都再法などに基づく法定協議会としての設置は考えておらず、来年度から各事業を推進するうえで、情報共有や各事業を統括する場というようなイメージを持っている。

また、合意形成や事業熟度を高めていくための作業部会などを設置し、階層を分けることも想定している。

委 員 長 まちづくり協議会については、行政が委員会形式で設置する場合、どうしても堅苦しくなりがちである。皆で気兼ねなく話し合える場を設けることも効果的であるので、そのような仕掛けをして行ってほしい。

委 員 ひたちBRTの整備ルートについては、この委員会で決定していくのか。

事 務 局 BRTの駅周辺運行ルートについては、来年度に交通量推計などを行いながら、決定していく。その際はコミュニティなどとも意見交換しながら作業を進めていきたい。

- 委員 今回の計画で位置付けたまちづくりに非常に期待している。良い施設をつくっても、それが活用されなければ意味が無い。それが活用されるよう、様々なまちづくり活動が行いやすいような環境の整備が望まれる。
- 資料の中で、「行政手続きにおける窓口のワンストップ化」ということがあった。日立駅にピアノを設置した際は、（シティ）が窓口となって、行政財産使用手続きなどの調整をしてくれたため、非常に助かった。今後、まちづくり団体が活動していくうえでは、そういった行政からのバックアップを是非推進してほしい。
- 副委員長 まちづくり協議会のイメージ図の「大学」の表記は、小・中・高を含めた教育機関という表現が良いのではないか。
- 委員 言葉の使い方として、「持続可能な」という表現について、最近は「SDGs」という考え方も取り入れられているので、どこかで使用しても良いかと考える。
- また、まちづくり協議会の体制というのは、多様であり、県内でも大学や民間事業者が取り組んでいる事例がある。常陸多賀の持続可能なまちづくりを推進するうえでは重要な組織であり、住民と情報共有を図りながら進めていくということがポイントだと考える。
- 委員 コンパクトシティの推進という観点から、駅周辺だけで生活が完結できるよう、様々な施設・機能の誘導を図りながら、便利なまちになるよう整備を進めてほしい。
- 委員 駅のデザインに関しては、日立駅とまでは言わないが、魅力的なものを検討して行ってほしい。また、緑のネットワークの構築では河原子海岸を活用しながら、山側道路から海岸まで散策が楽しめるような環境をつくってほしい。河原子海岸は防潮堤の工事が完了すれば、再度ヘルスロードに認定される予定である。
- 委員 まちづくりは人づくりというように、人材育成は重要であり、良い施設をつくった後で、それを運用する人達が必要になる。しかし、育成には時間がかかるので、情熱を持った人を発掘するという意識も持ちながら取り組んでほしい。起業しやすい環境や人的ネットワークの構築、人的情報の収集と集約できる場を作ることも重要と考える。

委員 オープンスペースなど、子どもの居場所となり得る場所が整備計画に位置付けられていることを評価する。30年後、40年後の、今の子どもたちが大人になっている社会を見据え、この事業を子どもたちへ情報発信するとともに、子どもたちの意見を聞く場、意見が挙げられる場を設けてもらえるとありがたい。本当に必要なものなど、斬新なアイデアを持つ子どもたちもいるかもしれない。

副委員長 先ほどのご意見に関連して、まちづくりでは人材育成が非常に重要なポイントになると考える。その中で、事業スケジュールの記載で、まちづくり協議会の設置が西口市有地の活用の中に入っているが、人材育成の項目も含めて、別建てで記載しても良いのではないかと。

委員長 本日の議論の内容を計画に反映させ、より良い計画をまとめてほしい。  
たくさんの方々に委員会にご参画いただき、たくさん意見をいただいた。  
今回の整備計画は、内容が多岐にわたっており、まさしく、まちづくりそのものの大きな計画となっているため、大きなスケールで考えながら計画の実現を図ってほしい。  
中長期的に実現していくべき内容も含まれているところであるが、駅周辺施設の整備については、皆さんもだいぶ具体的にイメージ出来てきてきたのではないかと。それは今回の大きな成果だと考えている。  
ブランディングの話もあったが、事務局は是非皆さんの力を借りながら推進してほしい。委員の皆さんもそれぞれのお立場で、この計画を周囲の方と共有・議論していただき、そこから、今後の常陸多賀のまちづくりを一貫して議論する流れが作れると良いと考える。  
長期間にわたる委員会が円滑に進行したことを皆様に御礼申し上げる。

(4) 都市建設部長あいさつ

委員の皆様には、大変忙しい中、昨年の7月の第1回策定委員会から計5回にわたってお集まりいただき、貴重なご意見、ご提案をいただいた。改めて厚くお礼申し上げます。

この度の常陸多賀駅周辺地区整備計画は、常陸多賀駅周辺地区の今後のまちづくりの方針を検討し、持続可能な魅力あるまちづくりを計画的に推進するための計画として、策定するものである。

駅周辺の現状と課題を踏まえた施設の整備方針や事業実現方策などを整理する過程において、委員の皆様のご意見・ご協力により内容を更に深めることができた。

特に具体の取組については、「都市拠点としての市街地の再生」や「交通結節点としての機能強化」など、本地区が今まさに求められている課題に対するまちづくりの基本的な考え方が示されたものと感じている。

多岐にわたる内容をご検討いただき、計画をまとめることができたのは、ひとえに、それぞれの分野でご活躍されている委員の皆様の、ご理解・ご協力の賜物と考えている。

今後は、計画で位置付けた各事業の具体化を図っていくことになるが、本地区の「質の高い暮らし」と「魅力あるにぎわい」を生み出すため、「まちづくり協議会」などを立ち上げながら、これまで以上に地域や事業者の皆様との連携を図り、さらに議論を深めながら、「本地区の持続可能なまちづくり」を推進してまいりたい。

なお、事業の推進体制として、4月1日から都市建設部の組織を見直し、駅舎及び自由通路を含めた常陸多賀駅周辺の整備、並びにひたちBRTの駅周辺運行ルート調整を一体的に推進するため、「常陸多賀駅周辺地区整備担当」を設置し、今後は、この新たな組織により本整備計画を実現していく。

策定委員会は本日で最終となるが、引き続き、ご指導・ご助言をいただければ幸いです。

委員の皆様にはお忙しい中、多大なるご協力を賜り、改めて感謝申し上げます。

(5) 閉会（午後3時00分）

以上